

## (6) 家庭内の躰

# 家庭内のしつけ7ヶ条

小笠原流礼法 鈴木 万亀子の伝総師範

### ① 幼稚園までは親から「おはよう」、 小学生からは、子供から「お父さん、お母さん、おはようございます」

「お父さん、お母さん」という対象語をつけ、「ございます」まで言わせるのは、誰に挨拶しているかということと、親が目上であるということを自覚させ、秩序を教えるためです。お母さんは、子供の名前をつけて挨拶を返してください。まずは、身近にいる親との挨拶で、敬語を使えるようにしましょう。そうすることで、他人にもちゃんと挨拶ができるようになるのです。また、お母さんが挨拶を返すときは、どんなに忙しくても、必ず子供の目を見てあげてください。そっぽを向きながら挨拶を返すと、子供はそれを真似して相手を見ずに挨拶をするようになります。

### ② 子供にTPOの大切さを教える

「食卓では、子供の髪をさわらないこと」が大切です。今、電車の中で、食事をしたり、化粧をしたりする風景が当たり前になっておりますが、公的な空間と私的な空間の区別がつかなくなっている原因も、そういうところにあるようです。

### ③ 子供の言葉を取り上げない

お母さんは子供が何か言いたいかわかるので、ついつい、その先を口に出して言ってしまいがちです。しかしそれだと、子供は、ちょっと話ただけでお母さんが汲み取ってくれることが当たり前になり、自分で最後まで順序立てて話すことができなくなります。

それは、お母さんが子供の小さいころから、言語の回路を切断していることになるのです。これだと、子供が大きくなっても、話し言葉が単語の羅列に近くなり、文章を書かせても短い文章しか書けなくなります。

子供が話し始めたら、子供の目を見て上手に相づちを打ち、聞き役に徹しましょう。

すると、子供は自分の頭で考えながら最後の結論まで話すようになります。また、他人の話も最後まで聞く、聞き上手になるでしょう。

### ④ 美しい言葉遣い、父親を子供の前でけなさない

子供にとって母親は愛情、父親は尊敬の対象になるわけですから、「夫の悪口は言わないで“遅いわね、何をしているのかしら”と言うなら“お父さん大変ね。こんなに遅くまで。私ならこんなに遅くまで働けないわ”と冒頭に言葉を添えて下さい。母の唇からは、美しい言葉以外発しない、と決心なさして下さい。そうすれば子供は父親を尊敬するようになります。

### ⑤ 子供を王様にしない

普通の食事の献立は、お母さんが考えてください。今、子供にどの栄養が不足しているのか、何を食べるようにしたいかは、お母さんの献立にかかっています。

いつでも子供に食べたいものを聞くのはやめましょう。子供の好みを聞くのは、何かのご褒美のときや、誕生日が良いでしょう。子供の服を選ぶときも同じです。お母さんのセンスの良さを伝えるいい機会です。

何でも子供の意見を聞いていると、子供は自然と「王様」になり、自分の思い通りにならないと、癇癪を起こすようになります。それがそのまま大人になり、自分の思いが通らなるとストレスをためるようになるのです。そのストレスが爆発すると、恐ろしいことになりかねません。

### ⑥ 見送りが大切

朝は忙しいお母さん。学校へ行く子供に朝食を食べさせ、「行ってらっしゃい」というのが精一杯かもしれません。でも、できれば玄関から出て、子供の後ろ姿を見送ってほしいのです。昔の家庭では、子供の姿が見えなくなるまで見送ったものですが、忙しい現代では、難しいでしょう。でもせめて、子供が5、6歩、歩くまでは見送ってあげてください。

お母さんに見送られた子供は、「母の愛」を感じながら学校に行きます。子供は、お母さんに見守られているという安心感が自己肯定につながり、さらに、自信につながるのです。

### ⑦ 叱る際は、親は上座、子供は下座

大声をあげて叱っても、それは単に威嚇しているだけです。子供は恐ろしいから、そのときは言うことを聞くでしょう。でも、本当に悪いことをしたと理解させるには、「なぜそれがいけないか」を考えさせなければならないのです。

そのためには、子供に注意を与えるとき、「もし、あなたがその人だったら、こんなことをされたらどんな気持ちになる?」と、相手の身になって物事を考えさせるのです。子供にも、そのときの言い分があります。それをよく聞いてから、「他の方法はないの?」と考えさせます。そのとき、くれぐれもお母さんからの提案をしないで、自分で考えさせましょう。

お母さんが根気よく接すれば、子供は必ず学んでくれるでしょう。

なお、子供を説得するときの場所は、和室ならお母さんは床の間の前に正座する。洋間なら入り口に近い方に子供、奥にお母さん。これは上座、下座の関係です。トーンを落として、静かにゆっくり説得してください。大声を上げるのは、危険な時や命にかかわる時です。